

第3章 京都大学教養部構内A P 25区の発掘調査

難波洋三

1 調査の経過

本調査区は、京都大学教養部構内の東部に位置する(図版1-167)。本調査区の周辺では、教養部図書館建設にともなう工事の際に縄文土器が採集されており、また、A号館増築工事に関係して、本調査区の西に隣接する地区でおこなわれた発掘調査で、中世と近世の溝などが検出されている。ここに教養部校舎が新営されることになり、従来の知見にもとづいて、本予定地にも縄文時代や中世・近世の遺構が存在すると推定されたので、建設予定地の発掘調査をおこなった。発掘調査は、1986年7月1日に開始し、8月31日に終了した。調査面積は599m²である。

2 層位 (図版12, 図23)

本調査区の現地表面は、北から南へと緩やかに低くなっており、標高は調査区の北端で55.5m、南端で54.9mである。

調査区は、広範囲にわたって、第三高等学校創設以後攪乱を受けているため、近世以前の遺物包含層や遺構の遺存状態はよくない。溝SD1～SD3を検出した付近では上から順に、表土(第1層)、茶褐色砂質土(第2層)、白色砂(第3層)が確認できた。この付近でもやはり遺物包含層は完全に削平されており、遺構は、無遺物層の第2層以下に達している部分の一部がかるうじて残っているにすぎない。ただし、X=1379以南には現地地表下約40cmから60cmにかけて遺物包含層の暗褐色土が残る部分もあり、本調査区の南方の地域は攪乱を受けていない可能性がある。将来の調査がまたれる。

さらに、調査地点における自然地形の変遷を調べるために、X=1410にそって東西方向の深掘りを、Y=2285にそって南北方向の深掘りをおこなった。その結果、両方向ともに、地表下約4mまでほぼ水平な堆積層が観察できた。

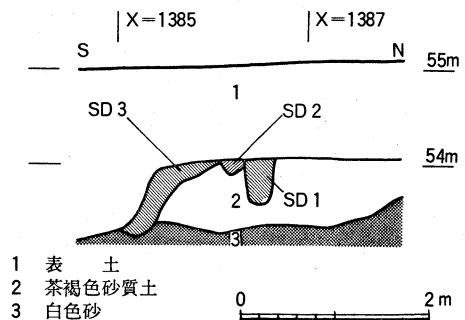


図23 調査区南北畔の層位 縮尺1/80

3 遺 構 (図版12, 図24)

前述のように，調査区全域にわたって攪乱が著しく，検出した遺構は，調査区南部の溝SD1～SD3のみである。

溝SD3は，埋土に土師器の細片等をわずかに含んでいる。土師器の型式比定が困難なため，時代を特定できないが，中世に遡るものであろう。溝SD3は，西に隣接する14地点の発掘調査で検出された，中世のV字溝につながる。埋土の状態から見て，滞水はしていなかったようである。

溝SD1とSD2は，出土遺物から考えて18世紀に使用，廃棄されたものであろう。溝

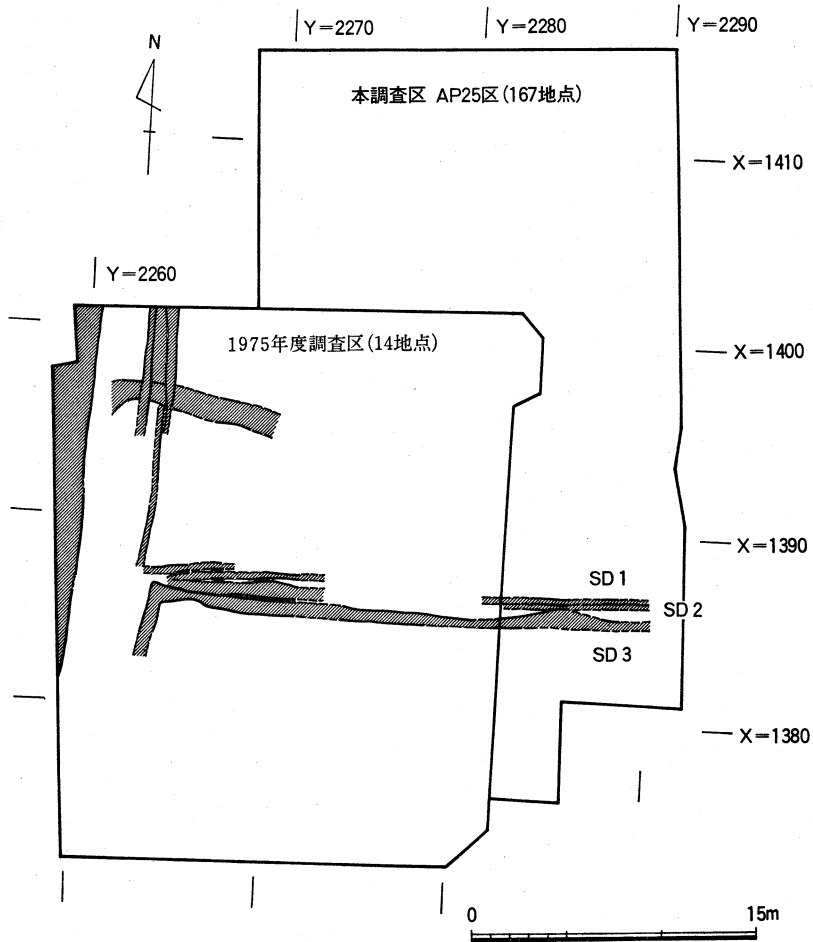


図24 調査区検出の遺構 縮尺1/400

SD1はU字溝で、埋土の黄褐色シルトは、上部ほど細砂の割合が高い。よって、溝SD1には、水が流れていたであろう。SD2はSD1によって肩が切られている。これらの3本の溝の方向は、ほぼ真東西である。

4 遺 物 (図版13, 図25・26)

前述のように、溝SD1とSD2からは、近世の遺物がまとまって出土している。以下これについて述べる。

Ⅲ1～Ⅲ11は、溝SD1出土の遺物である。Ⅲ1～Ⅲ3は土師器皿。Ⅲ1は内面と口縁外面の上端を撫でて仕上げる。Ⅲ2・Ⅲ3は内面に指おさえ痕を残す小型の皿である。Ⅲ4は土師器鍋。これは、17世紀前半以前に製作年代が遡るもので、混入品であろう。Ⅲ5・Ⅲ6は染付碗。Ⅲ5は内外面とも菊花文と氷割文で飾る。Ⅲ6は外面を氷割文で飾る。Ⅲ7は白磁碗。Ⅲ8は染付の碗蓋。外面に岩と水車と草文と飛鳥をえがく。Ⅲ9は染付の皿で、内面に牡丹唐草文、外面に唐草文をえがく。Ⅲ10は外面を縦方向の縞で飾る陶器鉢で、緑釉を全面にかける。Ⅲ11は陶器蓋。黒色のつやのない釉を薄くかける。

Ⅲ12～Ⅲ56は、溝SD2出土の遺物である。Ⅲ12～Ⅲ15は、内面に圈線がめぐる土師器皿である。Ⅲ16・Ⅲ17は、Ⅲ1と同型式の土師器皿である。Ⅲ18～Ⅲ21は、Ⅲ2・Ⅲ3と同型式の小型の土師器皿である。この小型の皿には、Ⅲ18・Ⅲ19のように内面に指おさえ痕が残るものと、Ⅲ20・Ⅲ21のようにさらに内面を撫でて仕上げるものがある。Ⅲ12～Ⅲ21は製作に回転台や轆轤を用いていないが、Ⅲ15は逆時計まわりの回転台による撫で痕が見込みに残っている。Ⅲ12～Ⅲ14・Ⅲ16～Ⅲ21は、京都市左京区岩倉の木野でつくられたと考えられるが、木野では土師器の製作に回転台や轆轤を使っていなかったため、Ⅲ15は

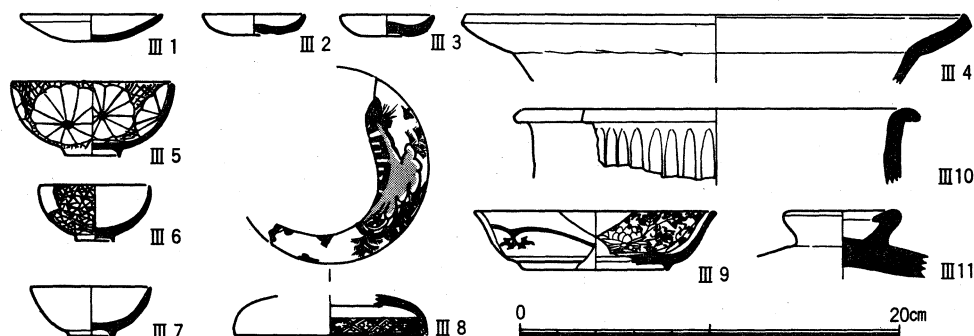


図25 SD1出土遺物(Ⅲ1～Ⅲ3土師器皿, Ⅲ4土師器鍋, Ⅲ5・Ⅲ6染付碗, Ⅲ7白磁碗, Ⅲ8染付碗蓋, Ⅲ9染付皿, Ⅲ10陶器鉢, Ⅲ11陶器蓋)

木野とは別の製作地のものであろう。土師質の燈明皿と燈明受皿に、Ⅲ15と類似した形態で、透明釉あるいは緑釉を薄く全面にかけたものがあり、Ⅲ15と同じく見込みに逆時計回りの回転台による撫で痕が残っている。Ⅲ15はこれらと同じ所でつくられたものかもしれない。Ⅲ22は、深草周辺でつくられた土師器のデンボである。Ⅲ22を含め、デンボは逆時計回りの回転台で調整されており、底部の篋切り痕が残る。デンボは、ツボツボとともに深草周辺でつくられ、伏見稲荷の門前で祭器あるいは玩具として販売された土師器である。ツボツボは直径高さともに2cm程度のものしかないが、デンボは、大中小の3個体を入れ子にした図が寛文6年(1666)刊の『ひなまつりの故実』などに掲載されており、大中小3個体を1組で販売されていたようである。Ⅲ23は、口縁を波状に仕上げた土師器皿である。Ⅲ22と同じく白色を呈しており、やはり深草周辺でつくられたものであろう。合川珉和画『通神画譜』文政2年(1819)刊には、同型式の土師器皿を、大中小の3個体入れ子にした図が掲載されており、これもデンボと同じく、大中小3枚1組で販売していたと考えられる。Ⅲ24・Ⅲ25は焼き塩壺の蓋である。いずれも内面に布疋痕が残る。Ⅲ25は二次的に熱を受けた痕が顕著である。Ⅲ26・Ⅲ27は土師器の壺蓋である。Ⅲ26は内面に回転調整痕が明瞭に残っており、逆時計回りの回転台を用いたことがわかる。Ⅲ28は土師器の五徳であろう。内面上部に煤が付着している。口縁内面には半円球の突起が三方に付いていたようである。Ⅲ29～Ⅲ31は土師器炮烙である。外面には型痕の粗面が残り、口縁と内面は回転撫でで仕上げている。Ⅲ32は土師器の鍋である。外面には口縁まで全面に型痕の粗面が残る。Ⅲ29～Ⅲ31の炮烙と同じく外型を用いて作っている。Ⅲ33・Ⅲ34は染付のいわゆる「くらわんか」の椀である。Ⅲ33はコンニャク判で菊花を施文している。Ⅲ35・Ⅲ36は染付椀である。Ⅲ37は外面のみ青磁釉をかけた磁器の椀。Ⅲ38は口縁が外反する染付の小椀。Ⅲ39・Ⅲ40は筒形の磁器向付で、Ⅲ40は外面に青磁釉をかける。Ⅲ41は内外面に褐色釉をかけた陶器椀、Ⅲ42は黒色の帯文を描いた上に暗緑色の透明釉をかけた陶器椀である。Ⅲ43は染付の鉢。Ⅲ44は見込みの釉を蛇の目状にぬぐった唐津系銅緑釉皿である。Ⅲ45は内面に枝梅を描いた京焼系の皿である。Ⅲ46・Ⅲ47は京焼系の土瓶の蓋である。Ⅲ48は唐津系の鉢で、外面に刷毛目を施す。Ⅲ49は陶器香炉であろう。内外面に茶褐色の釉をかける。Ⅲ50・Ⅲ51は陶器の燈明受皿である。Ⅲ52は京焼系の小型の仏花瓶。Ⅲ53はほぼ同大の土師質の仏花瓶。Ⅲ52はさび絵で、Ⅲ53は緑釉で文様を描く。ともに時計まわりの轆轤回転を利用した糸切り痕が底部に残る。Ⅲ54・Ⅲ55は茶褐色の釉をかけた同型式の陶器鍋である。Ⅲ56は伏見人形の牛の頭部である。

遺 物



図26 S D 2 出土遺物(Ⅲ12~Ⅲ21・Ⅲ23土師器皿, Ⅲ22デンボ, Ⅲ24・Ⅲ25焼き塩壺蓋, Ⅲ26・Ⅲ27土師器壺蓋, Ⅲ28土師器五徳, Ⅲ29~Ⅲ31土師器炮烙, Ⅲ32土師器鍋, Ⅲ33~Ⅲ36・Ⅲ38染付椀, Ⅲ37青磁椀, Ⅲ39・Ⅲ40染付向付, Ⅲ41・Ⅲ42陶器椀, Ⅲ43染付椀, Ⅲ44・Ⅲ45陶器皿, Ⅲ46・Ⅲ47陶器蓋, Ⅲ48唐津鉢, Ⅲ49陶器香炉, Ⅲ50・Ⅲ51燈明受皿, Ⅲ52・Ⅲ53陶器仏花瓶, Ⅲ54・Ⅲ55陶器鍋, Ⅲ56伏見人形)

SD1からは、製作年代が18世紀後半まで下るⅢ5やⅢ6が出土しているが、広東椀、口反り椀、ゆきひらなど、18世紀末以降に特徴的な遺物はない。よって溝は18世紀末までに埋まったと考えられる。一方、SD1に切られているSD2出土遺物のうち、Ⅲ44は17世紀後半から18世紀前半、Ⅲ33は18世紀前半に製作されたと考えられているものであるが、Ⅲ40は18世紀後半まで製作年代が下る可能性がある。

5 小 結

本調査区で検出した溝SD1とSD2は、その位置から考えて、近世吉田村の中口門から西へと伸びていた道路の南北いずれかの側溝にあたると考えられる〔浜崎83b〕。中世の溝SD3も、ほぼこれと同じ位置に同じ方位ではしっており、中世の地割が近世まで踏襲されていたことがうかがえる。また、1975年に調査を実施した、西に接する14地点では、これらの溝と直交する方向の溝と落ち込みが検出されている。天理大学附属図書館蔵の『吉田社周辺絵図』によれば、中口門の西側は、東西46間半すなわち約83mの間が地下屋敷と畑となっており、その西端に南北方向の地境と思われる線がえがかれている。中口門から西46間半の地点は、ほぼこの落ち込みの位置にあたり、この図の地境にあたる可能性がある。

前述したように、本調査区は、近代の攪乱が著しく、遺構がほとんど残っていなかった。しかし、かろうじて残っていた溝と、西接する調査区でかつて検出した遺構と合わせて検討することにより、近世吉田村周辺の土地利用の一部を解明することができた。